

おうらまち

議会だより



平成25年 9月定例会・10月臨時会

高島小学校運動会

平成24年度決算認定される（一般会計・各特別会計）

平成25年度補正予算可決（一般会計・各特別会計）

一般質問 【9人の議員が町の考えを問う】

岩崎律夫議員、田部井健二議員、原 義裕議員、小島幸典議員
坂井孝次議員、松村 潤議員、塩井早苗議員、大野貞夫議員
小沢泰治議員

- 可決された議案…………… 3～4
- 決算質疑…………… 4
- 一般質問…………… 4～13
- わたしのふるさと等…………… 13～14

No137

平成24年度の決算を認定

一般会計歳入総額 86億9,880万円

歳出総額 82億5,021万円

町税収入 37億1,615万円 (歳入総額の42.7%)



リニューアルされた町民体育館（右）と武道館（左）

9月定例会

9月定例会では、平成24年度の一般会計決算をはじめ、各特別会計の決算が提出されました。各常任委員会において審査を行い、19日の本会議で各会計とも認定されました。

一般会計決算額は、前年度と比較して歳入が、2億6909万円の減となりました。町債が増加した一方、繰越金、繰入金等が減少したことによります。町債の増は、公営住宅建設事業債1億4150万円や臨時財政対策債6900万円等が増加したこと等によります。繰入金の減は、公共施設等整備基金の繰入れ1億8763万円が減少したこと、国庫支出金の減は、地域活力基盤創造交付金6732万円や安全・安心な学校づくり交付金7410万円がなくなり、県支出金の減は、介護基盤緊急整備事業費補助金7373万円がなくなりました。

町税収入は、37億1615万円であり、歳入総額に占める構成比は、42.7%となりました。なお、町税については、1272万円の不納欠損処理が行われ、収入未済額も3億8984万円余りに達しています。この滞納問題では、収納のための電話催告、特別窓口の開設、コンビニでの収納を可能にするなど収納率向上のため努力されていますが、成果が見られません。

現年課税分は98.1%の収納率ですが、滞納繰越分は12.5%に激減することから、現年度分の徹底した収納を図ることが必要です。歳出においては、予算額89億7030万円に対し、決算額は82億5021万円、執行率は92.0%となっており、

歳出総額は、前年度と比較して2億1181万円の減となっています。減少の

なっております。

主な要因は、国営総合農地防災事業渡良瀬川中央地区事業費負担金7705万円、の減など農林水産業費の減、幼稚園・小学校・中学校のエアコン整備2億1347万円や学校給食事業特別会計繰出金2億4460万円の減など教育費の減等です。

平成24年度の財政状況は、実質単年度収支が5年連続黒字となり、人件費も減少してはいますが、町税等の落ち込みは回復せず、公債費も増加に転じました。少子高齢化の進展に伴い、扶助費を中心に財政需要の増大が見込まれます。引き続き、各事業運営の効率化をより一層推進されるよう要望します。

予算・職員数ともに減少傾向にある今日、限られた財源を最大限に生かすため、職員の力量をより高めていくことや組織の簡素化、効率的事務事業の執行がますます重要となります。これらの問題について積極的な改善に取り組むよう要望するものです。

(決算審査意見書抜粋)

■平成24年度決算額

会計別	歳入総額	歳出総額	差引額
一般会計	86億9,880万8,992円	82億5,021万2,179円	4億4,859万6,813円
国民健康保険特別会計	33億5,827万1,900円	32億1,586万9,246円	1億4,240万2,654円
後期高齢者医療特別会計	2億1,032万1,530円	2億0,911万0,063円	121万1,467円
介護保険特別会計	16億6,957万9,382円	16億4,086万2,032円	2,871万7,350円
下水道事業特別会計	3億1,460万6,650円	2億8,196万7,103円	3,263万9,547円
学校給食事業特別会計	2億5,909万5,642円	2億4,711万2,289円	1,198万3,353円
水道事業会計	4億9,111万8,864円	4億9,019万0,018円	92万8,846円 (当年度純利益)

可決された議案

9月定例会

〔条例改正等〕

邑楽町シンボルタワーの設置及び管理に関する条例

観光施設であるシンボルタワーにミニショップを設け、魅力アップによる観光と集客増を図るため、条例を改正しました。

邑楽町企業誘致条例

優良企業の立地促進及び雇用促進を引き続き図るため、さらに3年間継続実施する改正がされました。

邑楽町子ども・子育て会議条例

子ども子育て支援法の制定に伴い、地域の子ども子育て支援を総合的に推進するため、支援事業計画等の検討会議の設置について条例を定めました。

邑楽町社会教育施設建設基金条例

中央公民館建設資金に当てるため、基金を創設しました。

邑楽町長、副町長及び教育長の給与の特例に関する条例

2件の工事請負契約事項の変更につき、議会の議決を得ないまま事業執行をしたことが判明しました。その監督責任として、町長及び副町長の給与を1カ月間、10%削減することになりました。

町道の路線認定及び廃止

民間開発等や鶴土地区画整理事業に伴う町道路線の認定及び廃止をしました。

〔報告〕

平成24年度健全化判断比率及び資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき健全化判断比率等が報告されました。

〔人事案件〕

人権擁護委員の推薦

法務大臣から、3年の任期で委嘱されている委員3人のうち、2人が平成25年

12月末に任期満了となることから、針谷正司まさしさん（石打）、青葉和明わかつさん（篠塚）を推薦することの意見を求められ、同意しました。

情報公開・個人情報保護審査会委員の委嘱

平成25年9月30日で任期満了となる情報公開・個人情報保護審査会委員について、高木祥充さむらひさん（太田市）、中村詔司のりしさん（藤川）、近藤雅義まさよしさん（狸塚）に委嘱することに同意しました。

公平委員会委員の選任

平成25年9月15日で任期満了となる公平委員の選任について、田部井猛夫たけふさん（藤川）を再任することに同意しました。

固定資産評価審査委員会委員の選任

固定資産評価審査委員に、中村 晃あきらさん（赤堀）を再任することに同意しました。

〔契約の締結〕

邑楽町立中央児童館改築工事

契約金額（消費税込）9964万5000円

契約の相手方
邑楽町大字赤堀
株式会社 徳川組

【契約締結事項の変更に係る追認】

石打町営住宅新築建築工事（一期工事）

契約金額（消費税込）

2億2995万円から

2億3092万6500円

に変更

（97万6500円増）

石打町営住宅新築機械設備工事（一期工事）

契約金額（消費税込）

5460万円から

5334万円に変更

（126万円の減）

10月臨時会

【契約の締結】

邑楽町立長柄幼稚園改築工事（建築工事）

契約金額（消費税込）

2億7510万円

契約の相手方

邑楽町大字赤堀

株式会社 徳川組

株式会社 徳川組

■平成25年度補正予算額

会計別	予算現額	補正額	予算総額	
一般会計	74億6,500万円	5億0,682万円	79億7,182万円	
国民健康保険特別会計	29億9,639万円	1億7,321万円	31億6,960万円	
後期高齢者医療特別会計	2億0,318万円	121万円	2億0,439万円	
介護保険特別会計	17億0,100万円	1,433万円	17億1,533万円	
下水道事業特別会計	3億1,226万円	1,080万円	3億2,306万円	
水道事業会計	収益的支出	5億1,547万円	△197万円	5億1,350万円
	資本的支出	1億5,121万円	△120万円	1億5,001万円

決算質疑

Q&A

決算の主な質疑（要旨）

一般会計、各特別会計の決算にあたり、行政効果などについて質疑が行われました。

Q 神谷長平議員 決算不

用額が、2億9500万円

ある。当初計画した事業の

縮小があったのか。

A 町長 事業計画の執行

率が100%とはいかず、多くは入札による予定価格と落札額との差額である。職員が事業実施に伴い努力した結果でもある。

一般質問

一般質問は、9月11日及び12日に行われました。質問には、9人の議員が登壇し、町の行政事務などについて執行部の考えをただし、活発な議論が行われました。

町の地震防災対策について

を行っている。教職員は、南相馬市の校長先生から、実際に体験した話を聞き、全職員で研修を行った。

岩崎律夫議員 学校にお

ける防災教育について、その

内容、時間や教育の中身は、

教育長 学校や幼稚園では

危機管理マニュアルをつ

り、それに沿って避難訓練

岩崎律夫議員 町職員への

防災教育の充実が重要で



は。
町長 町の防災訓練に職員も出席し、即対応できる状況を自ら体験している。

岩崎律夫議員 広報での発信については。

町長 町は防災行政無線を設置し、国では防災に対する発信が即できるよう、Jアラートの体制も整えた。

岩崎律夫議員 町を挙げての防災訓練実施は。

町長 34行政区にある自主防災組織に訓練していただき、自主的に対応がとれる状況をつくり上げたい。

岩崎律夫議員 地震発生による被害を拡大させるのは火災である。町にも住宅密集地があり、打てる減災対策は打つべきだと思うが。
町長 減災対策は大事な事である。建築基準法では一定の幅員を持った道路がないと建築許可がとれない。狭隘な道路を少なくすることにより、瞬時の場合に対応できる。

岩崎律夫議員 水道管では

石綿管が地震の影響を受け易い。今までどの位入れ替えをし、どの位残があるか。

水道課長 毎年計画的に、耐震性のある铸铁管やポリ塩化ビニル管に布設替え工事を行っている。水道管の総延長が175・9km、そのうち8・3%の14・6kmに石綿管が残っている。

岩崎律夫議員 災害発生時町の医療体制だけでは対応し切れない。地域拠点病院としての館林厚生病院の受け入れ態勢、医療体制は。

保険年金課長 県知事の要請により、傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う体制をとっている。

岩崎律夫議員 災害時援助協定について。地震が発生し、すぐに困るのはライフラインの水や食料等である。家庭では備蓄など自助努力を始めているが、公助としての確保はどうなのか。

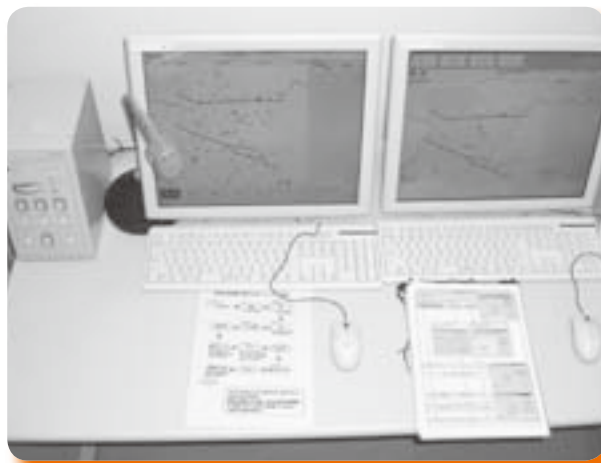
町長 平成13年に群馬県内全市町村が相互援助協定を締結している。水道管の配

管接続に関する協定については、館林市・大泉町・千代田町と減水時に相互提供ができるよう作業を進め、締結を図る。町と管工事組合では、水道施設の応急復旧工事に対して協定を結んでおり、安全に生活用水を供給できる体制である。

岩崎律夫議員 相互援助は、普段から交流関係を進め、公支援ができるところは考えていただきたい。

万全の体制で進めたい

町長 後方支援ができる体制は、相互理解を深めることにより、友好的な関係を結べる。近隣でも急を要する場合には、飲み物や物資等の援助を相互に協力し合う協定を結んでいる。万全の体制で進めていきたい。



新設された防災行政無線



消防団について

田部井健二議員 今、町で

は、消防団員は何名ほど活躍しているのか。また、町で定めている定足数にこの人数は達しているのか。

町長 活躍している団員数は、121人であり、定数はそのもので、皆さんに活躍をいただいている。

田部井健二議員 現状で定数割れをしていない。大変ありがたいと思う。防災減災にあたり、まさしく消防署員並びに消防団員の方たちが最前線で活躍をしている。消防団員については、昔と今では随分と団員構成がさま変わりしている。今、圧倒的に多いのが役場職員で、約3分の1近くを占めている。どうして今、役場職員がこれだけのウエートを占めているのか。

町長 役場職員が多いということについては、役場の仕事そのものもあるが、緊

急発生時に即対応できるような状況もある。

田部井健二議員 職場の環

境が整っている。理解が示されている。執務中に有事が発生しても、ここで働いている消防団員

は、隣の人に一声かけて、「行つてくる、よろしく頼む」と言え

ば、嫌な顔はさ

れずに、「ご苦労さまです、お願いします」と

返事をいただけ

る。この環境ができてい

るかから消防団員にな

って活動がしやすい。とすれば、町内企業に勤めながら尽力

されている消防団員、このよう

な方たちにも勤

事業所の協力が必要

町長 質問のとおりと思

め先でそのような配慮や理解をいただけるように、私は町長や消防署長が企業に行つて、消防団員が活動しやすくするようにお願いをすべきだと思うが。



消防団ポンプ操法競技大会

町所有財産について

原 義裕議員 過去3年間

の固定資産税収入済額と年度別対前年比を聞きたい。

税務課長 平成22年度は前年度比2・27%の減、23年度は1・59%の増で、24年度は7・49%の減で、3年間で約6%、1億1700万円の減となっている。

原 義裕議員 今後、固定資産税の収入増は、期待できないということなのか。

税務課長 景気は回復傾向にあるが、先行きはまだ不透明な経済情勢・社会情勢である。地方税の約50%を占める固定資産税は、景気が確実になるまで地価の減少、家屋の新築・新規の償

う。そのような状況は特につくってはこなかったが、これからの団員に活躍していただく場合、事業所の皆さんの協力が需要である。今後消防署、そして消防団

長と十分協議をし、進めていきたいと思う。

その他の一般質問

・町政運営について

却資産の手控えが続くと見込まれる。

原 義裕議員 旧給食センター跡地の売却入札を1月に行い失敗した。反省と今後の計画を聞きたい。

総務課長 入札参加の申し入れがあったが、当日に辞退され不成立になった。所管課として大変申し訳ない。

原 義裕議員 今後の計画予定については。

総務課長 現在跡地は、民間企業に資材置き場として貸している。今後については、経済情勢を見ながらあらゆる角度から検討したい。

原 義裕議員 議会の中で入札失敗の事実のみ報告された。その原因と今後の対策、計画について聞きたい。

町長 原因の把握はしていない。資材置き場として約6000㎡を4ヶ月間、87万6850円で貸し付けている。12月以降については、見極めていきたい。

原 義裕議員 佐賀県武雄市では、同じように塩漬けになっていた土地をインターネットで売った。「参考価格で売れないので市場価格に委ね落札、その差はあるが固定資産税や住民税等が入るので」と担当者は言う。新中野に代替地として宅地があるが、いつ取得したか。

町長 新中野の土地263・99㎡は、平成3年2月26日に取得した。

原 義裕議員 このときの取得価格が1713万3800円と聞いている。固定資産税は課税されているか。

町長 その時の流れで、今の価格に置き換えると大変

低い評価額になる。固定資産税は、町の所有なので課税されていない。

原 義裕議員 平成3年から20年以上固定資産税も課税されず、無駄遣いである。民間ならば倒産している。20年も放っておくのは常識外れだ。

町長 質問は十分理解できる。20年以上経つが、その間、公共工事の資材置き場等に利用してきた。その時の経済情勢が大きく左右し、土地の下落も続いてきた。今後は、議員の皆さん

に相談していきたい。

原 義裕議員 当然、5年10年で使われなければ、何とかするのが民間の考え方だ。

相談して処分したい

町長 取得価格と売り渡し価格の差が大き過ぎるところがあった。議員の皆さんに相談して、処分できれば考えていきたい。



旧給食センター跡地

公用地の売却と貸与について

小島幸典議員 給食センター跡地の競売報告が1月にあった。販売の目的は。

町長 町が抱えている財産があり、その財産を売却しお金が入れば、その土地以上に有効に活用できる。

小島幸典議員 売却して得たお金を何に使おうと思っただのか。

町長 幼稚園や中央児童館の改築計画事業を抱え、活用できると思った。

小島幸典議員 そういう土地こそ、福祉の活動希望者に譲渡販売すべきである。大きな会社の協力を求め、福祉作業所で指導員の力を借り、製品を造る技術を身につけ、就活できれば、生活の一助になる。そういう気持ちがあるのか。

町長 福祉作業所へ大企業からの技術指導をお願いするという考え方は大切に、

状況によって対応したい。

小島幸典議員 町民の財産である土地を一人に無償提供するということが、町民に認識されていない。本当に無償貸与でよいのか。

町長 児童福祉、障害者福祉、母子福祉等がある。当然行政で行っていかなければならぬと考えたときに、相当の応援が必要である。

小島幸典議員 貸した土地に借手が建物を建てた場合、移転や取り壊しの際トラブルのもとになる。建物を建てた場合の規約や契約は。
町長 無償貸付けの場合、双方での約束事を結ばなければならぬ。土地と建物の所有者が違うときは、契約の中できちっと取り決めをして、慎重に対応する。

小島幸典議員 「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲

目となる」という言葉がある。こういう例がある。昭和45年に売ったものを昭和58年に買い戻し、わずか何

年間約4倍の町税、1億5500万円を出している。建物をつくって何かあった場合、町長の名譽に傷がつ

かないよう、現状よりもいい方法は何か。トラブルが起きてからでは遅い。町の

対応、契約は条例にあるか。**町長** 町所有財産の売却の約束事は、規則の中にある。

5500万円を出している。建物をつくって何かあった場合、町長の名譽に傷がつ

たNPO法人の利用者は、町外の方も利用可能という認識でよいのか。

ごみ排出量データと抑制について

抑制について

坂井孝次議員

ごみの排出

な内容が書いてある。「邑楽町のリサイクル率は7・9%で、県下で一番悪い」という内容である。私は、このリサイクル率データは間違っていると思う。本当に邑楽町のリサイクル率は、県内最低と理解してよいのか。

量データと抑制について質問したい。先日、全国のごみ排出量データが新聞に掲載された。皆さんも見られたと思うが、群馬県民と邑楽町の町民にとつては非常に衝撃的な内容である。ごみの排出量は、平成11年度が全国ワースト2位。一番悪いのは大阪府で、次に悪いのが群馬県である。この資料を見れば、町民や県民は「行政は何をやっているのだ」と間違いなく言うと思う。また、もっと衝撃的

生活環境課長 公表されたリサイクル率については、結論から申し上げれば実態を正しく表しているとは言えない。まず、この算出方法であるが、各市町村の行政回収による資源化量と住

民団体等による集団回収所の合計を各市町村のごみの総処理量で除して出している。実際は資源化されているものもある。紙類を例にとると、大型店舗等での店頭回収、あるいは新聞販売店での回収、そして個人で行っているちり紙交換等のように、個人でリサイクルしている部分については、この率に反映されないことになっている。町民各自による新聞、雑誌等のリサイクルの取り組みは残念ながら、公表されたデータには反映させることができない。こういう部分が多ければ多いほど、リサイクル率

町長 仮定の話であるが、

状況に応じて判断

小島幸典議員 他の福祉法人が、一生懸命人々のために仕事をやるから、町の土地を貸りたいと言った場合、貸してもらえるのか。

そうなったときに貸すか貸さないかということは、状況に応じて判断をしている。

30年、普通の建物は20年という制約がある。NPOへの貸出し問題は、町が当然行すべき事業で合致していれば、貸す条件は出てくる。

町長 仮定の話であるが、

小島幸典議員 規約をきちっと定め、やれるのか。

• 松本公園と周辺の環境整備を

坂井孝次議員

結論から言

例えば、このデータは正しくないということなのか。作成された資料が実態を表していないということは、町



資源ごみ回収活動

民にとつては非常に迷惑で残念な話である。それに対して、行政サイドは説明責任が必要だと思うが。

広報誌で町民に伝える

生活環境課長 説明の方法については、広報誌等を使って町民に理解していただけのような対応を考えている。平成23年度の邑楽町の

市町村別一人1日当たりのごみの総排出量については、群馬県の平均はもろろんのこと、全国平均よりも少ないという数字が出ている。可燃ごみの排出量、また資源でない不燃ごみの排出量、これらのデータを見ると広域処理を行っている1市3町の中でも一番少ないという状況にある。こういったことを理解していただけのような対応を考えている。

ど、日頃から健康管理を自分からするように指導している。教職員も子ども達も熱中症にならないよう、日頃から特に配慮して指導している。

松村 潤議員 様々な対策を行っているので安心した。しかし、問題は屋外の対策である。屋外での活動が高い熱中症になる確率が高いということで、体育の授業や部活動で体温が上昇した子供たちの体をクールダウンする、ミストシャワーの活用を提案したい。

このミストシャワーは、打ち水と同じ原理で、水道水を利用し水圧により霧状に噴射させ、その気化熱で周囲の温度を2度から3度ほど下げる効果があり、涼しさを感じられる。設備も水道の蛇口と直結して使用するため噴射には電気代が不要で、水道料金のみで運転が可能、設置費用も格安である。視察先で子ども達の様子を伺うと、「子ども達のわくわく感、「涼しくて気持ちがいい」と歓声を上げていた。ミストシャワーを設置したことで、熱中症に気をつけようと注意喚起にもつながっている。次の授業への切り替えにもなり、学習意欲が湧く等々設置効果は大変大きいということである。子ども達の健康を守るためにも、ミストシャワーの設置を考えるが。

教育長 部活動等で校庭における活動が多い中学生の暑さ対策、健康管理が必要と考えられる。簡易なミストシャワーでも大変有効と思う。まず中学校から設置できればと考え、検討していきたい。

松村 潤議員 今すぐにでも何とかしてあげたいという教育長の思いが伝わって来る。ぜひ、次年度の予算に組み入れていただけないか町長に聞きたい。

学校施設の暑さ対策について

松村 潤議員 気象庁は今年の夏の日本の平均気温が

平年を1.06度上回り、1898年の観測開始以来4

番目に高いと発表し、「異常気象」と結論づけた。消

防庁の発表によるとこの異常気象の中で熱中症による

救急搬送者は、5月27日から8月18日までに、累計4

万7418人で、昨年同期の約1.3倍に上がった。邑

楽館林管内でも60人の方が

搬送され、その中で中学生以下が10人ということである。そこで現在町が行っている小中学校の暑さ対策は。

教育長 施設設備としては扇風機が各教室に4基ずつ設置してあり、幼稚園や小・中学校の各教室には全

てエアコンが設置され、製氷機や冷水機も設置してある。また園児、児童生徒は

自分で水筒を持参し、こまめに水分補給や日陰休憩な

る。また園児、児童生徒は自分で水筒を持参し、こまめに水分補給や日陰休憩な

る。また園児、児童生徒は自分で水筒を持参し、こまめに水分補給や日陰休憩な

る。また園児、児童生徒は自分で水筒を持参し、こまめに水分補給や日陰休憩な



ミスト発生装置

実施に向けて努力

町長 非常に格安で、その効果が期待できるということで、十分研究し実施に向けて努力していきたい。

その他の一般質問
・防災について

子ども・子育て支援について

塩井早苗議員

邑楽町子ども・子育て会議条例が可決され、町の取り組みが始まるとうとしている。国は、消費税増税をし、その財源を新制度に充てる予定である。子ども・子育て支援法の目的と趣旨は「子どもをより産み育てやすく」、「全ての子どもの良質な生育環境を保障し、子ども子育て家庭を社会全体で支援することを目的として、子ども・子育て支援関連の制度、財源を一元化して新しい仕組みを構築し、質の高い学校教育、保育の一体的な提供、保育の量的拡充、家庭における療育支援の充実を図る」とある。本当にこの法案の実施により、子どもを産みやすく、育てやすくなるのだろうか。いかに取り組み、自分たちの町に合ったものにしていくかは、町当局の姿勢にかかっている。ニーズが違う子ども達を一緒に過ごさせる幼保一体化について町長の考えは。

町長 幼保連携型認定こども園の普及を進めることが大きな柱の一つだ。幼稚園、保育園の持つ問題や課題もある。十分これらをすり合わせた中で行っていく。

塩井早苗議員 施設基準や人員基準を緩和する保育事業の多元化は、総合こども園、地域型保育事業（小規模保育や保育ママの導入）等新しいことばかりである。現行保育基準を下回る条件での保育が容認され、保育の質の低下を危惧するが。

教育長 町では今、学校教育課と福祉課で連携しながら対応している。6人から19人の小規模保育所では色々なことが緩和される。今、0歳児と保育士は3対1、1、2歳児は6対1である。法案では、0歳児も1、2歳児も6対1で保育される。本当に質の低下が問題であると感じている。

ある。法案では、0歳児も1、2歳児も6対1で保育される。本当に質の低下が問題であると感じている。

塩井早苗議員 利益追求型企業の参入で、人件費の削減・派遣社員の参入・園のマンモス化現象による目が行き届かない不十分な保育、子供や保護者との信頼関係の喪失等で働く側の身分保障の低下や企業の撤退等が懸念される。対策は。

学校教育課長 国の基準を踏まえ、市町村による認可事業とする仕組みを検討している。認可基準案では、「社会福祉法人、学校法人以外に対しては経済的基礎、社会的信望、社会福祉事業の知識経験に関する要件を満たすこと。その上で欠格事由に該当する場合や供給過剰による需給調整が必要な場合を除き認可する」とある。保育の質が落ちないようにすることが大前提だ。

塩井早苗議員 高島幼稚園と北保育園を幼保一体化する

と北保育園を幼保一体化する

休憩室

REST ROOM

晴読雨読

高橋 正

(前原・4区)

退職後は閑にまかせて「晴耕雨読」というところだが、耕す畑もないので、「晴読雨読」状態である。

若年時の海外古典推理小説に始まり、様々なジャンルの本を読んできたが、最近は何のせいかわからない時代小説と歴史関連書籍が圧倒的に多い。なかんずく、時代小説では藤沢周平氏の珠玉の短編集は何度読んでも飽きることがないし、歴史探偵を自認する半藤一利氏の近現代史観も非常に興味深い。

読書に疲れたら音楽を聴くに限る。一番のお気に入りにはベートーヴェンの「ヴァイオリン協奏曲」と「ピアノ協奏曲第五番」で、それぞれの緩徐楽章は、肖像画の厳つい顔からは想像できない口マンチックで美しいメロディーを聴くと、読書の疲れも忘れてしまうし、気分転換にはジャズも最高である。そう、これからも「多読多聴」でいこうと思っている。

る具体的ビジョンは。

十分慎重に行う

町長 両施設は老朽化による耐震性の問題のため改築を予定しており、25年度予算で設計委託を行う。他の2園は現状どおり。時代の趨勢により必要に応じた新たな対応が必要。民設・公設民営化・民営化への移行を十分慎重に行っていく。



高島幼稚園（上）と北保育園（下）

行政区の再編について

大野貞夫議員 町は34の行政区となつているが、現状についてどのような認識を持つているのか。

町長 今の状況を見ると、人口の減少はあるが、逆に世帯数が増加になつている。多い行政区では、100世帯を超えているところもあれば、50世帯台の行

政区もある。そういうことを見ると、区長はじめ役員の方々は、それぞれの地域の課題や問題を抱えている。この負担は、大きいものがある。

大野貞夫議員 内容的にアンバランスの状態であることは、恐らく皆さんが等し

く感じていると思う。今まで、行政区から特に困っていること、悩みとか具体的にあったかどうか。

町長 特に区長会の中からは、体育関係について町民体育祭、町内野球大会、バレーボール大会、卓球大会等についてチームが組めないという話があった。出場を辞退する行政区がふえてきており、関係する区長をはじめ、体育関係の役員の方が大変苦慮していると聞

私の生きがい

「これからは、お母さんも何かするといよいよ」と夫からの一言。子育てが一段落し、何か熱中できるものをやりたいと思つていた頃だった。考えた末、若い頃学んだ茶華道を再び勉強することにした。それから31年、師匠のもと一生懸命に修業を続けた。昨年、その師匠が突然他界され、私にとつて忘れられない辛く悲しい出来事だった。

振り返ってみると、師匠は技術的なものだけではなく、そのことを通して人やモノに対する感謝の気持ちを忘れてはならないこと等多くの事を教えてくださった。今度は、私が学んだことを弟子達にしっかりと伝えていきたい。そのために体験もたくさんさせてあげたい。高崎での研究会・少林山のお茶会など。

これからも私自身が人と人との関わりを大切にし、相手を思いやる優しい気持ちを持ち続け、いつも前向きな心で、健康に留意し、日々邁進していきたい。

休憩室

REST ROOM



大川 千代子
(前原・4区)

いている。

大野貞夫議員 大きな行政区は、それほど問題はないが、みんな等しく小さいところが抱えている問題である。これから先、少子高齢化と言われている中で考えた場合、どこかで手を打たなければならぬ。しかし、悩みは持っているが、どこでどう解決するかとなると、わからないというのが現実である。その点についての考えは。

大野貞夫議員 具体的な話になったとき、必ず出るのがそういう意見である。これは逃げてはだめである。では誰がその音頭を取るのか。もう一つの問題は、区の役員選出がある。区長を決めるのに、大変な時間を

要する。役員も決まらないとなつた時、そのし寄せは、町当局に行くことになり。こういう問題を最初からこうですと決めるのは、無理だと思う。それには場をつくることを提案して、そこに関係する人達に集まっていたら、意見をだし合う。これがまず必要だと思う。町長自らその音頭を取ることなくして事は進まないのではないか。

区長会で検討を

町長 町でということも、やぶさかではない。まず行政区の抱えている問題や役員選出も難しいという状況もある。あえて申し上げれば、再編に向けた懇談会というか、区長会も毎月行っている。どうしたものかという投げかけと、あわせて不都合な点があれば意見をいただきたいという聴取の仕方は、十分考慮していけると考える。

**東毛広幹道活用で邑楽町を
どう発展させるか**

小沢泰治議員 平成25年9月28日午後4時から、一般車両が館林ICから大泉町、太田市まで通行できる。そして、来年3月には、西は伊勢崎市まで、また国道122号との接続によって北は桐生市、みどり市まで行くことができ、東毛地区全体が一つになる。それを町長は現在どう思っているか。

町長 長年の懸案であった国道354号、東毛広域幹線道路の大泉邑楽バイパスが完成するが、経済・物流・人口移動等考えると大変喜ばしいことであり、よかつたと思つている。

小沢泰治議員 長年の懸案であったものがいよいよ貫通する邑楽町。東北自動車道館林ICから北関東自動車道太田桐生ICまで約22km、町の中心であるシンボルタワー、役場の南あたりがちょうど中間点になる。物

流や工場進出にとつても一番いい場所である。354号をただの車の通過点にするのではなく、町にお金を物を落とす、また労働力を吸収する、邑楽町に住んでよかつた、そういう町をつくり上げるのが町長であり行政かと思う。町長に就任して6年になるわけだが、町のためにどのようなこと

をすべきか。
町長 総合計画に基づいた事業を粛々と進め、完成させていく。一番の問題は、安心して安全に生活ができる町づくりである。財政的な面でも余り心配のない、きちつとした町ができ、町民の皆さんにサービス提供ができればという思いでこれからも進んでいきたい。



開通した国道354号大泉邑楽バイパス

議会の動き

8月

- 18日 おうら祭り
- 22日 邑楽郡町村議会議長会臨時会
- 28日 議会運営委員会
- 29日 総務教育常任委員会、産業福祉常任委員会
- 30日 全員協議会

9月

- 1日 防災訓練
- 6日 戦没者追悼式
- 10日～20日 9月定例会
(本会議、議会運営委員会、各常任委員会、全員協議会
広報委員会)
- 25日 大泉町外二町環境衛生施設組合議会
- 27日 邑楽館林医療事務組合議会、館林地区消防組合議会

10月

- 4日 議会広報委員会編集会議
- 6日 町民体育祭
- 7日 議会運営委員会、総務教育常任委員会、全員協議会
太田市外三町広域清掃組合議会
- 10日～11日 総務教育常任委員会視察研修
- 17日 第2回臨時会
- 18日 議会広報委員会校正会議
- 24日 群馬県町村議会議長会議員研修会
- 27日 館林地区消防組合秋季点検
- 29日 邑楽郡町村議会議長会スポーツ大会
- 31日 邑楽館林医療事務組合議会、館林地区消防組合議会

いる。しかしながら、人口が減り、税収が減り、あるいは産業が衰退していく。それでは困るわけである。邑楽町が発展するためには何が必要か。なぜ、いろいろ考えずにここまで来たか聞きたい。

町長 行政執行を進めるうえで、全てこれからどうしたらいいだろうかということとを前向きに考えてきた。

評価はそれぞれの方によって違うが、以前よりソフト事業も充実をしてやってきている。

小沢泰治議員 邑楽町全体のパイが大きくなっているか。縮小均衡ではためである。すばらしい邑楽町の郷土がある。そういうことを鑑みて、町長いかがか。

町長 今の国の経済状況は、デフレ基調であり、縮小傾向の環境を見れば、積極的にパイを広げることは後のツケにもなる。健全な財政運営を行いつつ、いろいろな事業に取り組むこと

健全な財政運営を行う

意見書

が大切だと思っている。その他

- ・科学の芽理科算数の実験体験施設の整備を

議員提案の意見書1件を可決しました。意見書は関係行政庁に提出しました。

道州制導入に断固反対する意見書

議会を傍聴しましょう

次回の定例会は、12月9日から13日を予定しています。〈開会は原則、午前10時 住所・名前・年齢を受付簿に書くだけでどなたでも傍聴できます。一般質問は10日と11日を予定〉役場庁舎1階ロビーのテレビにおいても、本会議の様態を中継していますので、お気軽にご覧ください。議会の会議録（議事等の経過をそのまま記録したもの）は、図書館、邑楽町公民館、産業研修会館（長柄公民館）、勤労青少年ホーム（ヤングプラザ）に置いてあります。また、ホームページにも会議録全文を掲載していますので、ご覧ください。URL <http://www.town.ora.gunma.jp/chosei/gikai> 詳しくは、議会事務局まで 88-5511（内線300）

わたしのふるさと

にしおきたまぐんしらたかまち 【山形県西置賜郡白鷹町】

戸ヶ崎 美貴
(前原・4区)



最上川と白鷹山

私のふるさは、山形県西置賜郡白鷹町です。町の主幹産業は農業で、最上川流域低地部の米作を中心に、果樹・ホップ・タバコ・コンニャクなどの特用作物が栽培されています。工業は、在来の伝統工芸品の織物工業のほか、電気工業・精密機械工業が目覚ましいです。

町の見どころとしては、白鷹山・三ツ池

の両自然公園、深山^{みやま}観音堂、下山温泉アユ茶屋などがあります。

標高994mの白鷹山の山頂には、上杉鷹山^{ようざん}筆の虚空蔵^{こくうざうざん}尊正面掲額、登山道横には、水芭蕉生地があります。小学生になると学校行事の登山で、途中、冷たい湧水^{わきみず}で疲れを癒し、また踏ん張って登ったことを懐かしく思い出します。

春は雪の中から福寿草が顔を出し、夏の8月14日はお祭りで獅子舞があり、ホタルが飛び交う場所もあります。秋は山のきのこを入れた芋煮、冬は銀世界。

子どもの頃は、何もない所と思っていましたが、自然破壊が止むことのない現状を考えますと、貴重な所に思えてくるのです。

ぜひ、紅葉の時期、白鷹山登山にチャレンジしてみたいはかがでしょうか。

編集 後記

カリを食べました。

空気が澄みわたり心地よい季節となりました。
9月末に、邑楽町産の新米コシヒ

もう新米がとれる時期になったのかと驚くとともに、季節の移ろいの速さを感じました。つやつやふっくら炊けたご飯は、お新香だけでいただけません。やはり新米は美味しいですね。

9月定例会では、たくさんの議題が審議され、可決しました。傍聴される方は少なめです。ほとんどのことが全員協議会で協議されるため、本会議での質疑が少ないからでしょうか。または、この時間帯は、仕事のため傍聴したくともできない実情があるのでしょうか。この点については町民の皆様からご意見やご要望をいただき、傍聴しやすい環境づくりに努めていきたいと考えています。

グローバルな時代に合った議会にしていきたいと思っております。ご意見ご要望をお待ちしております。
(塩井記)